

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年2月6日

【四半期会計期間】 第117期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

【会社名】 株式会社京都銀行

【英訳名】 The Bank of Kyoto, Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役頭取 土井伸宏

【本店の所在の場所】 京都市下京区烏丸通松原上る薬師前町700番地

【電話番号】 京都(075)361局2211番

【事務連絡者氏名】 経営企画部長 本政悦治

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区丸の内1丁目8番2号
株式会社京都銀行 経営企画部 東京事務所

【電話番号】 東京(03)6212局3813番

【事務連絡者氏名】 経営企画部 東京事務所長 多田明充

【縦覧に供する場所】 株式会社京都銀行 大阪営業部
(大阪市中央区高麗橋2丁目2番14号)

株式会社京都銀行 東京営業部
(東京都千代田区丸の内1丁目8番2号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		2018年度第3四半期 連結累計期間	2019年度第3四半期 連結累計期間	2018年度
		(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
経常収益	百万円	89,940	90,251	133,539
うち信託報酬	百万円	1	8	3
経常利益	百万円	26,346	28,010	45,184
親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	18,789	19,915	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	百万円	-	-	31,681
四半期包括利益	百万円	136,257	114,421	-
包括利益	百万円	-	-	76,981
純資産額	百万円	791,636	957,864	850,934
総資産額	百万円	9,343,079	9,566,449	9,665,127
1株当たり四半期純利益	円	248.84	263.63	-
1株当たり当期純利益	円	-	-	419.57
潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	円	248.38	263.25	-
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	円	-	-	418.78
自己資本比率	%	8.44	9.98	8.77
信託財産額	百万円	164	2,442	517

		2018年度第3四半期 連結会計期間	2019年度第3四半期 連結会計期間
		(自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)	(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益	円	89.61	93.19

- (注) 1 当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
- 2 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計 - (四半期)期末新株予約権 - (四半期)期末非支配株主持分)を(四半期)期末資産の部の合計で除して算出してしております。
- 3 信託財産額は、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務に係る信託財産額を記載しております。なお、連結会社のうち、該当する信託業務を営む会社は当行1行であります。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当行グループ(当行及び当行の関係会社)が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

- (注) 当行と当行の連結子会社であった京銀ビジネスサービス株式会社は、2019年7月1日を効力発生日として、当行を存続会社とする吸収合併を行いました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結会計期間末の主要勘定については、預金・譲渡性預金は、個人預金が増加したものの、譲渡性預金を中心に前連結会計年度末比2,796億円減少し、7兆7,508億円となりました。

貸出金は、企業向け、個人向けともに積極的に推進しました結果、前連結会計年度末比1,571億円増加し、5兆6,365億円となりました。

有価証券は、金利や株価、為替などの市場動向を注視しつつ、適切な運用に努めました結果、前連結会計年度末比865億円増加し、3兆39億円となりました。なお、時価会計に伴う評価差額(含み益)は、前連結会計年度末比1,424億円増加し、7,434億円となっております。

また、総資産は、前連結会計年度末比986億円減少し、9兆5,664億円となり、株主資本は、利益剰余金の増加により前連結会計年度末比125億円増加し、4,505億円となりました。

次に、当第3四半期連結累計期間の損益状況については、経常収益は、その他業務収益を中心に前年同期比3億11百万円増加し、902億51百万円となりました。経常費用は、営業経費を中心に前年同期比13億52百万円減少し、622億41百万円となりました。

この結果、経常利益は、前年同期比16億63百万円増加し、280億10百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比11億25百万円増加し、199億15百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間のセグメント別の業績については、当行グループの中心である銀行業において、経常収益は、前年同期比1億66百万円増加し、829億63百万円となり、セグメント利益は、前年同期比18億34百万円増加し、261億18百万円となりました。

また、その他において、経常収益は、前年同期比3百万円減少し、93億30百万円となり、セグメント利益は、前年同期比1億69百万円減少し、19億6百万円となりました。

(参考)

国内業務部門・国際業務部門別収支

当第3四半期連結累計期間の資金運用収支は、国内業務部門で前年同期比1,018百万円減少し、54,148百万円となり、国際業務部門で前年同期比296百万円減少し、990百万円となったことから、全体では前年同期比1,315百万円減少し、55,139百万円となりました。

役務取引等収支は、国内業務部門で前年同期比783百万円減少し、8,222百万円となり、国際業務部門で前年同期比13百万円増加し、165百万円となったことから、全体では前年同期比770百万円減少し、8,387百万円となりました。

その他業務収支は、国内業務部門で前年同期比1,400百万円増加し、3,891百万円となり、国際業務部門で前年同期比1,082百万円増加し、930百万円となったことから、全体では前年同期比2,483百万円増加し、4,821百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第3四半期連結累計期間	55,167	1,287	56,454
	当第3四半期連結累計期間	54,148	990	55,139
うち資金運用収益	前第3四半期連結累計期間	56,334	6,178	11 62,501
	当第3四半期連結累計期間	55,165	6,899	5 62,059
うち資金調達費用	前第3四半期連結累計期間	1,167	4,891	11 6,047
	当第3四半期連結累計期間	1,016	5,909	5 6,920
信託報酬	前第3四半期連結累計期間	1	-	1
	当第3四半期連結累計期間	8	-	8
役務取引等収支	前第3四半期連結累計期間	9,006	152	9,158
	当第3四半期連結累計期間	8,222	165	8,387
うち役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	14,314	237	14,552
	当第3四半期連結累計期間	13,823	253	14,077
うち役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	5,308	85	5,394
	当第3四半期連結累計期間	5,601	87	5,689
その他業務収支	前第3四半期連結累計期間	2,490	152	2,338
	当第3四半期連結累計期間	3,891	930	4,821
うちその他業務収益	前第3四半期連結累計期間	6,078	534	6,612
	当第3四半期連結累計期間	7,907	1,069	8,976
うちその他業務費用	前第3四半期連結累計期間	3,587	686	4,274
	当第3四半期連結累計期間	4,015	139	4,154

(注) 1 「国内業務部門」は当行の国内店及び国内に本店を有する連結子会社(以下「国内連結子会社」という)の円建取引、「国際業務部門」は当行の国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

2 資金調達費用は金銭の信託運用見合費用(前第3四半期連結累計期間2百万円、当第3四半期連結累計期間1百万円)を控除して表示しております。

3 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。

国内業務部門・国際業務部門別役務取引の状況

当第3四半期連結累計期間の役務取引等収益は、国内業務部門で前年同期比490百万円減少し、13,823百万円となり、国際業務部門で前年同期比15百万円増加し、253百万円となったことから、全体では前年同期比474百万円減少し、14,077百万円となりました。

役務取引等費用は、国内業務部門で前年同期比293百万円増加し、5,601百万円となり、国際業務部門で前年同期比2百万円増加し、87百万円となったことから、全体では前年同期比295百万円増加し、5,689百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	14,314	237	14,552
	当第3四半期連結累計期間	13,823	253	14,077
うち預金・貸出業務	前第3四半期連結累計期間	2,848	-	2,848
	当第3四半期連結累計期間	2,856	-	2,856
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	3,349	233	3,583
	当第3四半期連結累計期間	3,333	250	3,583
うち信託関連業務	前第3四半期連結累計期間	3	-	3
	当第3四半期連結累計期間	68	-	68
うち証券関連業務	前第3四半期連結累計期間	212	-	212
	当第3四半期連結累計期間	223	-	223
うち代理業務	前第3四半期連結累計期間	204	-	204
	当第3四半期連結累計期間	206	-	206
うち保護預り・貸金庫業務	前第3四半期連結累計期間	418	-	418
	当第3四半期連結累計期間	418	-	418
うち保証業務	前第3四半期連結累計期間	1,327	3	1,330
	当第3四半期連結累計期間	1,330	2	1,332
うち投資信託・保険販売業務	前第3四半期連結累計期間	2,436	-	2,436
	当第3四半期連結累計期間	1,847	-	1,847
役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	5,308	85	5,394
	当第3四半期連結累計期間	5,601	87	5,689
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	598	51	650
	当第3四半期連結累計期間	617	50	668

(注) 「国内業務部門」は当行の国内店及び国内連結子会社の円建取引、「国際業務部門」は当行の国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

国内業務部門・国際業務部門別預金残高の状況

預金の種類別残高(末残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第3四半期連結会計期間	6,736,201	211,345	6,947,546
	当第3四半期連結会計期間	6,860,434	205,991	7,066,426
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	4,235,590	-	4,235,590
	当第3四半期連結会計期間	4,534,240	-	4,534,240
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	2,458,550	-	2,458,550
	当第3四半期連結会計期間	2,286,470	-	2,286,470
うちその他	前第3四半期連結会計期間	42,060	211,345	253,406
	当第3四半期連結会計期間	39,723	205,991	245,715
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	774,957	-	774,957
	当第3四半期連結会計期間	684,416	-	684,416
総合計	前第3四半期連結会計期間	7,511,158	211,345	7,722,503
	当第3四半期連結会計期間	7,544,850	205,991	7,750,842

(注) 1 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金

2 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金

3 「国内業務部門」は当行の国内店の円建取引、「国際業務部門」は当行の国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

国内貸出金残高の状況

業種別貸出状況(末残・構成比)

業種別	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内(除く特別国際金融取引勘定分)	5,426,132	100.00	5,636,560	100.00
製造業	943,687	17.39	980,384	17.39
農業, 林業	3,012	0.06	2,802	0.05
漁業	68	0.00	60	0.00
鉱業, 採石業, 砂利採取業	19,587	0.36	19,726	0.35
建設業	136,460	2.51	136,936	2.43
電気・ガス・熱供給・水道業	82,825	1.53	87,205	1.55
情報通信業	53,105	0.98	47,872	0.85
運輸業, 郵便業	210,966	3.89	210,285	3.73
卸売業, 小売業	540,600	9.96	566,828	10.06
金融業, 保険業	188,669	3.48	195,759	3.47
不動産業, 物品賃貸業	688,180	12.68	732,559	13.00
各種サービス業	396,029	7.30	413,084	7.33
地方公共団体	575,373	10.60	607,861	10.78
その他	1,587,565	29.26	1,635,194	29.01
特別国際金融取引勘定分				
政府等				
金融機関				
その他				
合計	5,426,132		5,636,560	

「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務の状況

連結会社のうち、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づき信託業務を営む会社は、当行1行であります。

イ．信託財産の運用／受入状況（信託財産残高表）

資産				
科目	前連結会計年度 (2019年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
銀行勘定貸	517	100.00	2,442	100.00
合計	517	100.00	2,442	100.00

負債				
科目	前連結会計年度 (2019年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
金銭信託	517	100.00	2,442	100.00
合計	517	100.00	2,442	100.00

(注) 共同信託他社管理財産については、前連結会計年度(2019年3月31日)及び当第3四半期連結会計期間(2019年12月31日)のいずれも取扱残高はありません。

ロ．元本補填契約のある信託の運用／受入状況（未残）

科目	前連結会計年度 (2019年3月31日)			当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)		
	金銭信託 (百万円)	貸付信託 (百万円)	合計 (百万円)	金銭信託 (百万円)	貸付信託 (百万円)	合計 (百万円)
銀行勘定貸	517	-	517	2,442	-	2,442
資産計	517	-	517	2,442	-	2,442
元本	517	-	517	2,442	-	2,442
負債計	517	-	517	2,442	-	2,442

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月6日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	75,840,688	75,840,688	東京証券取引所 市場第1部	単元株式数は100株 であります。
計	75,840,688	75,840,688		

(注) 提出日現在発行数には、2020年2月1日から四半期報告書を提出する日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日		75,840		42,103		30,301

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 283,400		単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 75,363,700	753,637	単元株式数100株
単元未満株式	普通株式 193,588		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	75,840,688		
総株主の議決権		753,637	

(注) 「単元未満株式数」の欄には、当行所有の自己株式94株が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社京都銀行	京都市下京区烏丸通松原 上る薬師前町700番地	283,400		283,400	0.37
計		283,400		283,400	0.37

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

- 1 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」(1982年大蔵省令第10号)に準拠しております。
- 2 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(自2019年10月1日至2019年12月31日)及び第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
現金預け金	931,179	600,916
コールローン及び買入手形	96,078	119,421
買入金銭債権	14,045	15,013
商品有価証券	145	168
金銭の信託	30,074	13,050
有価証券	² 2,917,433	² 3,003,954
貸出金	¹ 5,479,390	¹ 5,636,560
外国為替	42,530	9,124
リース債権及びリース投資資産	10,978	12,393
その他資産	64,031	77,789
有形固定資産	76,980	76,583
無形固定資産	3,172	3,153
繰延税金資産	1,271	1,258
再評価に係る繰延税金資産	46	56
支払承諾見返	20,786	18,243
貸倒引当金	23,017	21,239
資産の部合計	9,665,127	9,566,449
負債の部		
預金	7,086,430	7,066,426
譲渡性預金	944,059	684,416
コールマネー及び売渡手形	9,989	70,000
債券貸借取引受入担保金	442,341	415,526
借入金	57,943	57,451
外国為替	214	58
信託勘定借	517	2,442
その他負債	58,731	57,255
退職給付に係る負債	30,329	29,966
睡眠預金払戻損失引当金	753	753
偶発損失引当金	872	953
特別法上の引当金	0	0
繰延税金負債	161,224	205,091
支払承諾	20,786	18,243
負債の部合計	8,814,192	8,608,585
純資産の部		
資本金	42,103	42,103
資本剰余金	34,331	34,260
利益剰余金	363,391	375,778
自己株式	1,815	1,550
株主資本合計	438,011	450,592
その他有価証券評価差額金	418,582	517,205
繰延ヘッジ損益	5,026	9,420
土地再評価差額金	105	128
退職給付に係る調整累計額	3,341	3,200
その他の包括利益累計額合計	410,109	504,455
新株予約権	598	467
非支配株主持分	2,215	2,348
純資産の部合計	850,934	957,864
負債及び純資産の部合計	9,665,127	9,566,449

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
経常収益	89,940	90,251
資金運用収益	62,501	62,059
(うち貸出金利息)	34,496	34,263
(うち有価証券利息配当金)	26,647	26,198
信託報酬	1	8
役務取引等収益	14,552	14,077
その他業務収益	6,612	8,976
その他経常収益	1 6,272	1 5,129
経常費用	63,593	62,241
資金調達費用	6,049	6,921
(うち預金利息)	3,130	3,960
役務取引等費用	5,394	5,689
その他業務費用	4,274	4,154
営業経費	45,408	43,875
その他経常費用	2 2,467	2 1,600
経常利益	26,346	28,010
特別利益	68	-
固定資産処分益	68	-
特別損失	155	302
固定資産処分損	155	176
減損損失	-	126
金融商品取引責任準備金繰入額	0	0
税金等調整前四半期純利益	26,258	27,707
法人税、住民税及び事業税	6,877	5,700
法人税等調整額	524	2,026
法人税等合計	7,402	7,727
四半期純利益	18,856	19,980
非支配株主に帰属する四半期純利益	66	64
親会社株主に帰属する四半期純利益	18,789	19,915

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
四半期純利益	18,856	19,980
その他の包括利益	155,113	94,441
其他有価証券評価差額金	154,262	98,694
繰延ヘッジ損益	1,147	4,394
退職給付に係る調整額	295	140
四半期包括利益	136,257	114,421
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	136,190	114,284
非支配株主に係る四半期包括利益	66	137

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1 税金費用の処理

連結子会社の税金費用は、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じることにより算定しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
破綻先債権額	4,112百万円	4,272百万円
延滞債権額	65,228百万円	60,096百万円
3か月以上延滞債権額	-百万円	96百万円
貸出条件緩和債権額	6,434百万円	2,501百万円
合計額	75,775百万円	66,968百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

2 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
	30,574百万円	33,093百万円

3 元本補填契約のある信託の元本金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
金銭信託	517百万円	2,442百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
株式等売却益	4,094百万円	3,092百万円
貸倒引当金戻入益	- 百万円	167百万円
金銭の信託運用益	124百万円	103百万円

2 その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
株式等売却損	1,066百万円	435百万円
貸倒引当金繰入額	367百万円	- 百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	3,137百万円	2,770百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	2,265	30.00	2018年3月31日	2018年6月29日	その他利益 剰余金
2018年11月12日 取締役会	普通株式	2,265	30.00	2018年9月30日	2018年12月3日	その他利益 剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	5,285	(注) 70.00	2019年3月31日	2019年6月28日	その他利益 剰余金
2019年11月14日 取締役会	普通株式	2,266	30.00	2019年9月30日	2019年12月2日	その他利益 剰余金

(注) 1株当たり配当額のうち、40円は特別配当であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他	合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	銀行業				
経常収益					
外部顧客に対する経常収益	82,063	7,876	89,940	-	89,940
セグメント間の内部経常収益	733	1,458	2,191	2,191	-
計	82,797	9,334	92,131	2,191	89,940
セグメント利益	24,283	2,075	26,359	12	26,346

- (注) 1 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。
 2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、信用保証業、リース業、クレジットカード業、証券業等を含んでおります。
 3 セグメント利益の調整額 12百万円は、セグメント間取引消去であります。
 4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他	合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	銀行業				
経常収益					
外部顧客に対する経常収益	82,237	8,110	90,347	96	90,251
セグメント間の内部経常収益	726	1,219	1,946	1,946	-
計	82,963	9,330	92,294	2,042	90,251
セグメント利益	26,118	1,906	28,025	15	28,010

- (注) 1 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。
 2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、信用保証業、リース業、クレジットカード業、証券業等を含んでおります。
 3 外部顧客に対する経常収益の調整額 96百万円は、貸倒引当金戻入益の調整であります。
 4 セグメント利益の調整額 15百万円は、セグメント間取引消去等であります。
 5 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	円	248.84	263.63
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	18,789	19,915
普通株主に帰属しない 金額	百万円	-	-
普通株式に係る親会社株主 に帰属する四半期純利益	百万円	18,789	19,915
普通株式の期中平均 株式数	千株	75,508	75,541
(2) 潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益	円	248.38	263.25
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する 四半期純利益調整額	百万円	-	-
普通株式増加数	千株	138	109
希薄化効果を有しないため、潜 在株式調整後1株当たり四半期 純利益の算定に含めなかった潜 在株式で、前連結会計年度末か ら重要な変動があったものの概 要		-	-

2 【その他】

中間配当

2019年11月14日開催の取締役会において、第117期の中間配当につき次のとおり決議しました。

中間配当金額 2,266百万円

1株当たりの中間配当金 30.00円

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月5日

株式会社京都銀行
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大 竹 新

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 下 井 田 晶 代

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社京都銀行の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社京都銀行及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。